

平成 29 年度岩手県林業技術センター機関評価及び試験研究評価実施結果

1 目的

(1) 効率的な業務運営を図るため、機関評価を実施する。

組織、運営、研究開発、人材育成などの面から評価を行い、当センターの使命・役割の遂行状況を検証し、試験研究機関の機能強化、効率的な業務運営の推進を図る。

(2) 試験研究の効果的・効率的な推進を図るため試験研究評価を実施する。

試験研究課題の選定から試験研究終了後の成果の普及に至るプロセスに関し、適切な評価を実施することにより、効果的・効率的な試験研究の推進を図る。

(3) 機関評価等の客観性・透明性を確保するため、県の組織に属さない外部有識者等を評価委員とする外部評価を実施する。

2 機関評価及び外部評価委員会の開催日時等

(1) 日時 平成 29 年 9 月 21 日（木）13：30～16：30

(2) 場所 岩手県林業技術センター 大講義室

3 評価委員

岩手県林業技術センター所長が選任、委嘱する。（任期：平成 29～31 年度）

所 属 等	氏 名
岩手県立大学総合政策学部教授	渋谷 晃太郎
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所長	梶本 卓也
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場長	関 充利
奥州地方森林組合代表理事組合長	小原 剛一郎
岩手県木材青壮年協議会会長	梅垣 俊輔
岩手建築士会	上田 吹黄

4 機関評価結果

各項目について、8項目が「妥当」、1項目が「やや妥当」という評価を得た。

評 価 項 目	評 価 視 点	評 価	主 な 意 見 等
機関の運営方針・研究推進計画に関すること	県の政策・施策と業務運営方針の整合性 県の政策・施策と研究推進計画の整合性 研究推進計画への県民、企業等のニーズの反映状況	妥当：6 やや妥当：0 一部見直し：0 大幅見直し：0	・行政ニーズ、県民・企業のニーズの把握 ・いわて林業アカデミー開講が明るい話題 ・機関運営と研究推進計画が適切
組織体制に関すること	業務全般に対するマネジメントの実施状況	妥当：5 やや妥当：1 一部見直し：0 大幅見直し：0	・限られた人員による課題対応、綿密な組織運営
人員の配置及び研究員の育成に関すること	人員配置の状況 研究者の育成方策	妥当：2 やや妥当：3 一部見直し：1 大幅見直し：0	・若手研究者の積極的な登用 ・多面的な研究課題への対応方策の検討 ・研究員の能力向上へのサポート
予算の配分と研究施設・設備に関すること	業務内容に関する経常的経費の状況 研究に必要な施設・設備の確保	妥当：4 やや妥当：2 一部見直し：0 大幅見直し：0	・予算の範囲内での適切な経費配分 ・試験研究予算の確保 ・施設等の老朽化への対処、設備の確保

大学・企業等との連携、外部資金の導入、受託研究への対応に関すること	大学・企業等との効果的な連携の実施 積極的な競争資金への応募 受託研究への対応	妥当：4 やや妥当：2 一部見直し：0 大幅見直し：0	・外部資金の積極的な導入、研究業務の推進 ・研究課題の採択に応じた関係機関との連携
研究開発に関すること	研究課題へのマネジメントの実施状況	妥当：5 やや妥当：1 一部見直し：0 大幅見直し：0	・実情に沿った研究実施 ・緻密な手続きによる研究課題の決定 ・ニーズの把握、課題の採択、実施、評価、成果の普及・反映までの検証
研究成果の活用に関すること	研究成果の実用化、事業化の実施状況 研究成果の普及状況 研究成果の知的財産権化、活用の的確性	妥当：3 やや妥当：3 一部見直し：0 大幅見直し：0	・研究成果の普及を目的としたモデル受託の設計コンペの検討 ・研究成果の活用状況の追跡検証
業務の情報発信に関すること	情報発信状況 (対象、内容、方法)	妥当：3 やや妥当：3 一部見直し：0 大幅見直し：0	・一般県民への情報提供 ・ホームページ活用の拡大 ・マスコミへの情報発信の工夫
総括的事項	機関設立の意義・目的と業務内容の整合性	妥当：5 やや妥当：1 一部見直し：0 大幅見直し：0	・機関設立の意義・目的と業務内容の整合 ・研究成果の現場への定着

5 研究課題に対する総括評価結果

課 題 名		総括評価 (※)	総括評価に関する主なコメント
簡易感染診断技術を活用したマツタケ 林地導入技術の開発	継続	A：1 B：5 C：0	・マツタケの生産性向上によりアカマツ林の再生、林業の活性化が期待される。 ・重要な課題であり、研究の進展が望まれる。
林地環境改善によるシロ活性化技術開発	継続	A：2 B：3 C：1	・期待する成果が得られたと評価できる。 ・実用化に取り組んで欲しい。 ・関係機関と連携し、目的を達成されたい。
広葉樹被害の把握と防除技術の開発	継続	A：2 B：4 C：0	・被害の低減が急務である。 ・優先的に取り組む重要課題である。 ・期待する成果が得られたと評価できる。
マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発	継続	A：1 B：5 C：0	・松くい虫被害対策の根本的な解決策となり得る。 ・採種園の改良に引き続き取り組まされたい。 ・研究成果が期待される。
スギ花粉等多様な形質の家系評価と検 定技術の開発	継続	A：2 B：4 C：0	・重要な課題であり、引き続き取り組まされたい。 ・必要不可欠な研究であり、人材の育成・技術の継承 に組み込み、継続する必要がある。

※ 総括評価 A：十分な成果が期待、優先的に取り組む必要
B：一定の成果が期待、継続して取り組む必要
C：見通しに問題、計画再考